

グローバルセンター

令和4年度 グローバルセンター活動報告

I. グローバルセンター概要

● 3部門概要

キャンパス・グローバル化部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際プロジェクトの支援</li> <li>・海外の大学、研究機関との連携強化</li> <li>・国際社会に向けた情報発信</li> </ul>
海外学生派遣部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「進取の精神グローバル人材育成プログラム」実施</li> <li>・海外研修、学術交流協定校等の派遣留学促進</li> <li>・海外留学に必要な情報の提供、相談、指導</li> <li>・日本人学生と外国人留学生の協働学修促進</li> </ul>
外国人留学生部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学留学生向け日本語、日本文化・異文化理解教育</li> <li>・外国人留学生への生活・学習支援</li> <li>・留学生と地域との交流促進</li> </ul>

● 教員

センター長	尾崎 孝宏 (教授：兼務教員)
キャンパス・グローバル化部門	中谷 純江 (教授) 難波 美芸 (特任講師)
海外学生派遣部門	畝田谷 桂子 (教授) 森田 豊子 (特任准教授)
外国人留学生部門	和田 礼子 (教授) 市島 佑起子 (講師)
世界展開力事業担当	MARMOLEJO RAFAEL (特任助教)

II. 令和4年度の活動内容

1. 令和4年度グローバルセンター運営委員会

(1) 主な審議事項

A. 教務、教育プログラム運営

大学の世界展開力強化事業／日本語日本文化研修留学生プログラム

Study Japan Program 開設科目と修了要件（前後期）／修了認定（前後期）／協定締結

B. 学生受入、派遣

鹿大「進取の精神」支援基金事業（留学生受入推進事業の募集、選考等）

C. 人事、管理運営

専任教員採用計画／特任職員採用計画／グローバルセンター客員教授称号付与

令和3年度決算、令和4年度予算／令和4年度、5年度非常勤講師雇用計画

日韓共同理工系学部留学生予備教育コース規則廃止／客員研究員の受入れに関する要項の検討

(2) 表1. 開催日程

\*はメール会議

回数	1*	2*	3*	4*	5*	6	7*	8*	9*	10
日程 (始)	令和4年									
(至)	4/21	5/19	6/23	7/22	9/20	9/27	10/20	11/17	12/22	1/17
	4/25	5/23	6/27	7/26	9/22		10/24	11/21	12/26	
回数	11*	12*								
日程 (始)	令和5年									
(至)	2/22	3/10								
	2/27	3/15								

## 2. 令和4年度グローバルセンター教育関連事業（概要報告）

本節では、グローバルセンターが実施している事業の中から、特に学生教育を中心に概要を報告する。

### (1) 学生海外派遣

#### (1a) 日本人学生の海外派遣実績

令和4年度は、大学全体で年度内に32名（協定校派遣23名、トビタテ留学 JAPAN 9名）を派遣した。

また、令和5年度の派遣に備えて、令和5年度派遣候補生選考を行い、29名を選考し、PDCA サイクルに則った派遣準備教育（共通教育科目「派遣留学 I」「留学生のための異文化理解」）を実施した。

個別プログラムの令和4年度の実施状況は以下の通りである。

- ・鹿児島大学学生海外研修支援事業→ 153名支援（オンラインに変更して実施した研修も含む。）
- ・鹿児島大学学生協定校派遣留学→ 23名派遣
- ・トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム→ 9名派遣
- ・鹿大「進取の精神」支援基金事業による学生海外派遣事業（長期派遣）→ 2名派遣
- ・鹿児島県清華大学留学支援奨学金奨学生事業→ 中止
- ・鹿児島大学21世紀版薩摩藩英国留学生派遣事業「UCL 稲盛留学生」→ 0名派遣

コロナ禍ではあったが、例年通り「進取の精神グローバル双方向交流プログラム」(P-SEG Interactive)」の運営を行った。P-SEG 説明会を対面とオンラインで開催したほか、Web や SNS 等による情報提供、啓発活動を行った。令和2年度および3年度の渡航停止期間を経て、令和4年度は、各国の水際対策の緩和に伴い、3年ぶりに海外研修を再開することが可能となり、25コースを実施、計147名の学生を海外に派遣した。また、語学力強化のための学習機会として、Intensive English をオンライン開講（前後期各10回、受講者数：前後期計126名）したほか、TOEFL 模擬試験（受験者数：前後期計62名）を実施した。引き続き、オンラインを活用した国際教育の推進に力を入れ、表2の通り実績をあげた。

表2. 令和4年度オンライン国際教育科目受講者数（35科目）

数値目標となっている項目		目標値	実績値
世界展開力事業 COIL 科目	本学学生数	154 名	394 名
	海外連携校学生数	197 名	194 名
全学オンライン 国際教育科目	本学学生数	-	601 名
	海外連携校学生数	-	446 名

(1b) 海外留学啓発活動、指導

令和4年度海外研修及び派遣留学説明会と派遣候補生選考を行った（「派遣留学説明会」7月実施、参加者92名、「トビタテ!説明会」12月実施、参加者計35名）。また、個別留学相談（42名）を実施した。循環型留学啓発教育では、派遣留学経験者に対し、学生海外派遣部門ホームページの留学体験談サイト「伝えよう！鹿大生の海外体験」と留学情報を記入するファクトシートの利用を継続して促した。

大学の支援を受けた派遣留學生のみならず、私費渡航を計画している学生の渡航管理、指導を年間通して行った。

(1c) 地域人材育成プラットフォーム「グローバル教育プログラム」

運営委員として、地域人材育成プラットフォームの運営に携わるとともに、本プログラムにおいて、スタートアップ科目「Intercultural Communication for Global Citizens」、コア科目「Confronting Kagoshima Regional Issues」、地域志向科目「Capturing Kagoshima Regional Issues from SDGs」を開講した。このうち、スタートアップ科目とコア科目では、西オーストラリア大学の有志が全授業にオンライン参加して協働学習を実施した。

また、本プログラムで担当している事前学習、海外実地体験、事後学習科目については、実渡航が再開されたことで、令和4年度は4人の受講者があり、西オーストラリア大学に渡航した。

(2) 国内学生と留學生の国際共修

コロナ禍のため休止していた、外国人留學生と日本人学生が交流するグローバルランゲージスペース（グロスぺ）の活動を再開した。週1回、固定グループで1学期に10回開講する「グロスぺ外国語」は、前後期とも原則オンラインで実施した（前期56名：留學生9名、受講學生47名。英、韓、中、越、緬語）、（後期75名：留學生14名、受講學生61名。英、韓、中、台、馬、仏、土、西語）。参加者の報告には、例年通り、参加を意義深いものとするコメントが多数見られた。

(3) 外国人留學生受入

(3a) 外国人留學生受入状況、教育体制

外国人留學生対象の「Study Japan Program (SJP)」を原則、対面で実施した。前期は入国が遅れた留學生がいたため、入国状況に合わせてハイブリッド形式で実施したり、開講時期を6月まで段階的に遅らせて対応した。後期は従来通りすべてのクラスを10月に開講した。後期は入国が遅れた留學生はいなかったが、桜ヶ丘キャンパスや下荒田キャンパスの留學生に日本語学習の機会を提供するため、初級レベルのオンラインクラスを実施した。コロナ禍の期間中止していた大学間学術交流協定に基づく交換留學生の受入れを後期から再開し、年間を通じた交換留學生の受入数は55名となった。また、SJP年間受講者数は延べ440名だった。

平成29年度より継続している鹿大「進取の精神」支援基金留學生受入推進事業では、「研究留學生受入プログラム」において3プログラム/4名、「鹿児島日本語・日本文化研修プログラム」では1名を受入れ、指導を行った（アジア、アフリカ、米国の大学からの留

学生)。

共通教育の外国人留学生必修科目である日本語日本事情科目では、当初はオンラインで授業を行い、コロナへの対応状況に応じて対面+オンラインの形式に移行する形となった。新規の学部留学生16名のうち8名は、年度当初から自国にて遠隔で授業を履修することとなった。未入国者を含む学部の新規留学生を対象に、学内関係部署と連携し、遠隔授業による学習の問題点やコロナ禍における生活不安等に関して、オンラインによる相談・指導を実施した。

(3b) 外国人留学生受入体制の充実

外国人留学生への経済的支援として、鹿大「進取の精神」支援基金留学生受入推進事業として2プログラム/5名を支援した。さらに大学独自の奨学金として「鹿児島大学留学生後援会奨学金(10名)」「種村完司私費外国人留学生奨学金(5名)」を給付した。

新規留学生獲得のため、進学説明会の開催・参加や多言語資料の送付による広報を行った。具体的には、日本語学校で本学独自の進学説明会2件を開催し、他機関が主催する進学説明会1件に参加した。また、国内外の日本語教育機関に本学の受験案内(日本語版・韓国語版)を送付し、広報した。

外国人留学生をサポートする「留学生受入れサポートデスク」では、スタッフとして本学の学生を雇用し、入国時の手続支援、オンラインでの情報発信を強化した。留学生宿舎である国際交流会館では、例年通り会館チューター5名(国際交流会館に居住する学生スタッフ)を採用し、チューターに対する相談・指導を重点的に行って業務改善に努めた。

(4) 学生・教職員への国際的な情報の発信

本学の国際教育プログラム(P-SEG Interactive)の説明会を4月と10月に開催し、P-SEG WebサイトやSNSから情報発信を行った。また、コロナ禍においても将来を見据え、世界に目を向けて学習を継続する高い意欲を持ち続けられるよう、2種類の冊子『未来は誰がつくる 視点をグローバルに』(第2版)と、『セカイを変えよう P-SEG Interactive』(2022)を作成し、学生に配布した。

(5) 若手教員の国際的研究活動を支援する取組

令和4年度鹿児島大学若手研究者国際交流支援事業のうち「若手教員海外研修支援事業(若手枠)」では1件を支援した。また、同事業のうち「文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」(令和2年度選定)の支援事業である「若手教員海外研修支援事業(女性枠)」では5件、「国際交流助成事業(双方向交流型)」では3件、「国際共同研究促進事業」では2件を支援した。これらの支援を通じ、若手研究者が国際的研究ネットワークを発展させる機会を提供するよう取り組んだ。

(6) 平成30年度採択 文部科学省大学の世界展開力強化事業「米国から鹿児島、そしてアジアへ—多極化時代の三極連携プログラム」

大学の世界展開力強化事業(以下、「本事業」)の最終年度として、コロナ禍で延期されてきた実渡航による交流プログラムの実施と、これまでの成果の確認・共有および今後の展開

の方向性を示すことに取り組んだ。実渡航によるプログラムの再開により、本学学生82名を派遣し、海外連携大学の学生75名を受入れた。新たな国際教育の手法として取り組んだオンライン国際協働学習（COIL）では、14科目を海外連携大学との間で開講した（受講者数は上掲表2のとおり）。

また、本事業の5年間の取り組みを総括する目的で、ハイブリッド型の国際シンポジウム「多極化時代の人生の歩み方：ラテラルな世界の新たなみちしるべ」を12月3日に開催した。基調講演には鹿児島県内に拠点を持ち、グローバルに展開する企業2社から講師を招き、地域に根付くグローバル人材の重要性について議論する機会とした。本事業において、地域と連携したプログラムが大きな役割を果たしただけでなく、鹿児島大学の国際教育の方向性を改めて確認し、学内外と共有することができた。シンポジウムの開催方法にも工夫を施し、同期型のシンポジウムの後で、非同期型のシンポジウムを1ヵ月間、Web上で開催した。さらに、本事業の派遣プログラムに参加した学生が「学生会議」としてリアルタイムでディスカッションを行い、その様子を連携校の教員・学生と共有する機会も設けた。以上のように、時間や空間を超えて、米国やアジア各地の連携大学からの参加者との間で5年間の振り返りと成果の共有を行うことができた。

さらに、学部別・コース別のシンポジウムも開催した。農学部が「食の安全」「食と健康」「食の生産」の3コース連携で1月28日に国際シンポジウム "Security and Safety in Global Food Chain" を、医学部「島嶼へき地医療」コースが、クロージングフォーラム「島嶼へき地保健：オンライン国際協働学習の展望と課題」を3月5日に開催した。これらのシンポジウムでは、活動成果の総括を目的としたシンポジウムに加え、今後の連携プログラムの関する具体的協議やダブルディグリー協定の締結も行った。

このほか、各コースで実施されたCOILの事例報告をWEB上に掲載し、成果の普及に努めた。

#### (7) 鹿大「進取の精神」支援基金事業

寄附金を原資とする同基金事業の実施報告として、「鹿大『進取の精神』支援基金 学生海外派遣事業 留学生受入推進事業 若手研究者支援事業 令和3年度事業報告書」を令和4年9月に刊行し、同基金を支援する目的で設立された鹿児島大学「鹿大『進取の精神』支援基金」支援会役員をはじめ関係各団体、企業に贈呈した。同事業により、海外派遣は国内学生84名が、受入は外国人留学生5名が支援を受けた。詳細は上記報告書を参照。

以上



各授業の受講者数、性別、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属  
令和4年度後期

科目	受講者数		性別		受講者の在籍資格										専門・所属																			
	男性	女性	修了者数	学部生	大学院生	研究生	予備教育生	短期等	研究員	家族等	農学	共同獣医	水産	医学	工学	法文	教育	歯学	理学	人文	教育研究	保険	理工	農林水産学	医歯	臨床心理	共同獣医学研	適合農学	適合獣医	他大学				
入門日本語1 (zoom)	7	4	3	0	0	2	0	5	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0			
入門日本語1 (湖南農業大学クラス)	11	2	9	0	2	9	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0			
会話1B	12	8	4	0	0	7	1	4	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0			
会話2B	16	9	7	0	7	3	0	6	0	0	2	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0			
会話3B	7	5	2	0	0	4	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0			
会話4B	12	6	6	0	0	2	0	10	0	0	2	0	0	0	0	3	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
会話5B	12	4	8	0	0	3	0	9	0	0	1	0	0	0	1	4	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
会話6B	10	1	9	0	0	1	0	9	0	0	1	0	0	0	0	7	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
会話7-1B	4	2	2	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
会話7-2B	6	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
演習1B	12	8	4	0	0	7	1	4	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
演習2B	11	4	7	0	5	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
演習3B	9	5	4	0	2	5	0	2	0	0	2	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
読解4B	14	6	8	0	0	3	0	11	0	0	2	0	0	0	0	5	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
読解5B	13	4	9	0	0	1	0	12	0	0	0	0	0	0	1	5	5	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
読解6B 論文読解基礎	15	4	11	0	1	2	0	12	0	0	1	0	0	0	0	10	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
読解7B	8	2	6	0	1	1	0	6	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
作文5B	13	4	9	0	1	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	6	5	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
作文6B	10	2	8	0	1	1	0	8	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
作文7B	7	1	6	0	0	1	0	6	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
漢字1	7	4	3	0	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
漢字2	6	2	4	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
漢字4	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
漢字5	4	1	3	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本語7-7a7B	34	8	26	0	1	1	0	32	0	0	1	0	0	0	0	14	9	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本社会と文化1	11	5	6	0	0	1	0	11	0	0	0	0	0	0	1	4	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本社会と文化2	9	1	8	0	0	1	0	8	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
留学生のための異文化理解	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
<b>SJP科目 小計</b>	<b>283</b>	<b>105</b>	<b>178</b>	<b>0</b>	<b>30</b>	<b>58</b>	<b>14</b>	<b>181</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>35</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>14</b>	<b>83</b>	<b>47</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>48</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>5</b>	<b>35</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>4</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	
オンラインクラス Step1																																		
Step2	6	4	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	0	2	1	0	0	0	0	
オンラインクラス計	<b>6</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>6</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
グローバルセンター開講科目 総計	<b>289</b>	<b>109</b>	<b>180</b>	<b>255</b>	<b>0</b>	<b>36</b>	<b>58</b>	<b>14</b>	<b>181</b>	<b>0</b>	<b>35</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>14</b>	<b>83</b>	<b>47</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>48</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>5</b>	<b>36</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>6</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	
留学生のための異文化理解	6	2	4	4	0	0	0	6	0	0	1	0	0	0	1	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本語III*	19	11	8	19	18	0	0	1	0	0	4	0	2	0	6	4	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本語IV*	20	11	9	20	19	0	0	1	0	0	4	0	2	0	6	5	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本語VB*	30	15	15	29	22	0	0	8	0	0	5	0	2	0	9	8	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>共通教育科目 計</b>	<b>75</b>	<b>39</b>	<b>36</b>	<b>72</b>	<b>59</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>16</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>14</b>	<b>0</b>	<b>6</b>	<b>0</b>	<b>22</b>	<b>18</b>	<b>6</b>	<b>3</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

注1 数字は延べ数。  
 2 専門・所属：予備教育生はそれぞれの専門によって分類。  
 3 短期等：特別聴講学生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、科目等履修生。  
 4 修了者数欄  は修了認定をしない授業。  
 5 共通教育科目は共通教育センターで単位認定を行っている。



